

2023—10—28

会長 吉田昌彦

木の葉が色づき始め、いよいよ秋本番を迎える。芸術、スポーツ、食欲の秋との言葉があるように、様々なイベントや味覚を楽しめる季節…

下旬の霜降(24日)より、冬の季節を感じることも、富士山を始め、北海道の山々から初冠雪の便り。一方、依然鳴りがやまない、ウクライナの戦火、つみもない女性や子供の犠牲が連日のように報道されている、又、近況からイスラエルとパレスチナとの戦火も日ごとに拡大の一途をたどっている。何がこの様な行為を起こしているのか、仮に自国での紛争を想定したとき、ふと我に帰る何かを感じる。又、新型コロナウイルス感染症に関する予防のワクチン接種も6回～7回目の接種が進んでいる。私たち高齢者は、感染後の後遺症対処から、是非、接種を拒むものではありません。そして健康で明るく、日常活動に(クラブ活動)にエンジョイしましょう。日老連の行事や北部地区主催の行事に参加した成果を報告します。

我が四ツ谷永寿会も元気に、明るく、サークル活動を実行しています。

## 1、長寿の祝いについて

去る10月28日(土)11時より、例年にならい“長寿の祝い”を行いました。今年は7名の方がめでたく米寿、傘寿を迎えられました、4年ぶりに宴を実行。祝福を受けられる方、お祝いと記念品、記念撮影で感謝のお礼を述べさせて頂き、祝宴の部では、舞踊部の今年度都大会に出場された実績を披露、ウクレレ演奏やけん玉ショウ、最後はビンゴゲームで盛り上がり、あっという間の時が過ぎ、結びの言葉を天野副会長に今後の永寿会の活動を宜しくと!!

## 2、日老連主催の活動について

### ☆2-1 高齢者作品展の開催について

来る、5年10月13日(金)～10月15日(日)前期:北部地区・南部地区開催で行われました。場所:市民会館(煉瓦ホール)日頃の熟練された写真、作品、趣味の品々を飾りました。頑張って作成した大多数の小物、大物は好評でした

## 3、北部地区主催の今後の予定について

### ☆3-1 北部地区第一回吹矢大会(団体戦)について

去る、5年10月17日(火)新町交流センターにて、実施されました。北部地区平向会長の挨拶で始まり、主催者のルール説明、試技等で昨年体験したことの経験と、各クラブ活動での浸透から、和気あいあいのうちに2時間が立ちました。当日は、四ツ谷永寿会からも5名が参加し、健闘の甲斐なく、入賞を逃しました。皆様ご苦労様でした。

### ☆3-2 北部地区第8回ボウリング大会について

来る、5年11月17日(金)SUP日野ボウルにて、予定されました。時間は、受付13時、競技は14時00分から、会費:1500円。参加者募集中です。

### ☆3-3 北部地区第8回カラオケ大会について

来る、5年12月8日(金)市民会館煉瓦ホール(小)にて、予定されました。





参加人員は、**四ツ谷永寿会(10名)**で決定しました。**参加者募集中**です。詳しくは次回会報でお知らせいたします。

#### 4、サークル紹介について

##### ☆輪投げサークル

記: 田中光子

日老連や北部地区でも輪投げ大会が催されています。私達輪投げ部も**毎週木曜日**に四ツ谷地区センターで、この日の成果と健康維持のため実施。輪投げは、ピンに輪を投げ入れる競技です。**技術は勿論、集中力、平常心**が必要なスポーツです。年齢、性別、体力、運動能力などは直接関係ありません。リラックスしながらの練習が一番です。ボケ防止や体力増進に“持って来い”のスポーツです。皆さん、是非一度練習に参加して下さい。誰でもすぐ出来るスポーツです。見学は自由です。お待ちしております。

練習日;**毎週木曜日** 場所;**四ツ谷地区センター**  
時間;**13:30~16:00** 部員数;**6名**です。

#### 5、“鰻の放談”

5-1 ♪特攻キーボード作戦♪(音楽“3”以上だった者読むべからず!) **No.35**

\* さっさとグランドピアノ? ...好之者不如楽之者だよねー「毎日がフィナーレ」

##### (L 伊)モスクワを陥落させた英雄(中上)

脱線ついでになりますが、16世紀以降、欧州では、小火器全般を**マスケット**(musket)と呼んでいました。**ライフル**(施条)銃に切り替わる前の**ナポレオン戦争(1803~1815)**で使われていた頃の銃は、先から鉄とか鉛の丸玉を込める**先込め式(単発前装式)**で、**前装滑腔・フリントロック式マスケット銃**とも言いましょうか。**火縄銃**(マッチロック式Matchlock gun)よりちょっとだけマシな、**火縄**の代わりに、**ライターの発火装置**の様なイメージで、着火する。**現代では**、はるかに高性能な**発火合金**と言って、「セリウムCe」と鉄の合金「**フェロセリウム(1906~)**」を使っております。この合金は摩擦によって火花を出しやすい性質があり、火花は千度以上の温度があり、これによって可燃ガスやベンジン等に**楽々点火**します。これに反して、当時は、**フリントロック式**

(Flintlock: 火打石式)、**鑿発式(すいはつしき)or 鑿石式(すいせきしき)**と言って、鉄より硬い石で鉄(鉄材は炭素との合金)を削って、含有炭素の火花を利用して着火するので、完全に、**火打石(ひうちいし)**ですね。当然、これは、自然石で非常に硬質な玉髄質の**石英**を利用する。よく見る白い岩石なのです。**ロック(lock)**の意味は、鍵ではなくて**銃の発射装置**をも指して居るのです。

さて、少し前の1783頃から、今では、当たり前前の**ライフル銃**が登場し始めました。銃身内の螺旋状の浅い溝により、銃身内で加速される弾丸に**旋回運動**を与え、**ジャイロ効果**によって弾軸の安定を図り、直進性を高める目的で用いられる様になりました。**ライフル**がない**滑腔銃身**から実弾を発射すると、**回転**されない弾丸は**空気抵抗**を受けて横弾となったり、でんぐり返りながら飛ぶので**命中精度**はまったく期待出来ませんでした。しかし、この時代の軍用銃の主流は、依然として**前装滑腔式マスケット銃**でした。前装式**ライフル銃**は、問題が多く、メネジの様な螺旋の溝を切る製造コストの高さや、弾丸もメネジ様の内側に密着させて発射させて回転を与えたいので、隙間は出来るだけ少なく成っているのです。先からでは、**装填**が難しく、主流とはなれませんでした。狙撃兵の武器として用いられる等、特殊用途であったのです。全面切り替えは、**薬莖**が実用化された1836~となります。

平均的な**マスケット銃**の最大射程距離は**200m**位、有効射程距離、つまり相手を殺傷できる射程距離は、その半分以下の**100~50m**程でした。

戦争のやり方も、今と全然異なって、「**戦列歩兵**」と呼ばれる兵士同士のぶつかり合いが戦争の中心でした。鼓笛で整然と行進しながら敵に前進し、号令によって一斉射撃します。軍隊の中核をなすのは歩兵であるのは古代から現代でも同じですが、各歩兵がバラバラに行動して銃を撃っても、相手を殺傷できる確率は低く、密集し、横1列になって銃を撃つ、横1列より2列、2列より3列の方が命中率は上がります。その歩兵は通常、マスケット銃を持った歩兵が数十メートル、の縦隊や横隊を作り、それを何列にも並べて、敵と味方が最も近くなった部隊同士で銃を撃ちあい、最後は、銃剣を槍の代わりにして突き合い、陣形が崩れた方が負け、と言う戦闘の仕方が一般的でした。慣れると一分間に2~3発撃てたそうです。又、当時、**黒色火薬**でしたので、もうもうと白煙が発生し、風がないと指揮官は、見通しが利かないので往生したそうです。ニトロ系の**無煙火薬**が回り始めたのは1884年以降となります。当時は、目立つ様に軍服を派手にして、帽子や飾りも大げさにしてました。 倉岡 裕 記

#### 6、会員の異動報告 2023年10月13日現在

クラブ	組	氏名	性別	生年月日	年齢	住所	記事
	3	新保時子	女	S.16.3.26	82	日野市日野本町6-15-3	2023.9.1 入会

#### 7、次回の役員会

令和5年11月25日(土) 9:30~

